SHONAN VISION

Social Magazine

Vol.14
2018.10

全てを笑いの糧に

Take Free

全てを笑いの糧に
―お笑い芸人 イシバシハザマ 石橋尊久―

インタビュアー・片山清宏　　文・片山久美

「これだけ動かして電源落ちないのはありがたいですねー。小さい料理教室だと電子レンジを2台同時に動かすとブレーカー落ちちゃうなんてよくありますから」

湘南T-SITE内Panasonic「KURA_THINK」。11月に開催予定の「湘南VISION大学」での料理教室の授業の打ち合せに訪れた。使用する家電を丁寧に質問しながら見て回る。

お笑い芸人「イシバシハザマ」石橋尊久。

リズミカルな芸風からはちょっと意外で、ゆったりとした優しい雰囲気を持つ石橋。彼の人生を追いかけた。

勉強は学年トップクラス

「今思い返してみると、家の回りに芸人がたくさんいたんですよね。近所にはたむけんさんの家があったし、ほっしゃんさんの妹が中学の同級生だったり。吉本芸人の辻本茂雄さんがご近所でした」

石橋は1975年大阪府阪南市生まれ。郵政監察局職員だった父、国立病院の看護婦長をしていた母。教育熱心な公務員の家庭に生まれ、小さい頃は習字、そろばん、ピアノ、サッカーとたくさんの習い事をしていた。

「両親は子どもにはしっかり教育を受けさせたいと思ったんでしょうね。いろいろな習い事をさせられました。でも自分がやりたいことではないからか、すぐ辞めちゃうんですけどね」

厳しかった両親のもと、小学校時代は真面目に勉強していた石橋。中学１年生の期末テストでは、学年360人中2位というトップクラスの成績だった。しかし、順調かと思われた中学校生活は、2年生の春、初めて壁にぶつかった。

不登校、そして高校中退

「自分は毎日部活もやらないで急いで家に帰って一生懸命勉強してようやく2番になっているのに、1番のやつはバスケ部のキャプテンでしかも男前なんですよ。中学2年に上がったとき、自分の中で『パーン』て何かが弾けちゃったんですね。頑張ってやってもしょうがないなと」

そんなときに1学年上の先輩に誘われた。「暴走族を見に行こう」

夜中に両親に内緒で勝手口からこっそり家を抜けだし、地元の海に行った。当時の海といえばヤンキーのたまり場。石橋が見たこともなかった世界が広がっていた。

「同じ中学にこんな人たちおったっけ？というくらい金髪やリーゼントの人たちがたくさんいて。見たことのない派手なバイクにびっくりすると同時にドキドキしました。寝てる場合ちゃうやん！て（笑）」

当時バイクに乗っていたのは免許を取ったばかりの高校生。自分とさほど変わらない16、7歳の高校生が、石橋には大人びてかっこ良く見えた。だんだん遊びに誘ってもらうようになり、夜になるたびに家を抜け出し、何をするわけでもなくコンビニの駐車場や海岸に溜まったりする日々が楽しかった。

夜遊びが親にバレたのは、友達と自転車で2人乗りしているときにトラックに追突され、警察経由で連絡が入ったのがきっかけ。

「中学はちゃんと行ってましたけど、完全な反抗期。親に怒られても気にしませんでした。高校は2週間で行くのを辞めました」

高１の終わりに中退。退学届を職員室に持って行ったときは何も思わなかった。担任の先生からも何の感情も感じ取れなかった。ただ、母だけは泣いていた。どうしても高校だけは卒業してくれと言われた。

当時石橋には悩みがあった。髪が無いのである。この頃から円形脱毛症がひどくなり、頭皮の3分の1くらいが「ハゲている」状態に。

「好きなことやっているように見えて、実はものすごいストレスを感じていたんですね。髪がどんどん抜けていくんです。スキンヘッドにすればバレないだろうと思って髪の毛を全部剃ったら、抜けた部分は真っ白、髪のある部分は真っ青で地球儀みたいになってしまって」

円形脱毛症を隠すため、私服で、帽子がかぶれる定時制高校へと再入学した。定時制高校の始業は午後5時。最初は仕事もしていなかった石橋だったが、お金がないことと退屈だったこともあり、昼間はアルバイトを始めた。

アルバイトで料理の腕を磨く

「初めての仕事は食料品の工場でした。冷たい冷蔵室の中で、冷凍のつくねをこねる仕事。あまりに冷たくて手がちぎれそうになる。初日の午前中やって『お昼休憩行ってきまーす』と言ってそのまま家に帰りました（笑）」

いろいろな仕事を転々とし、出会ったのが高級中華料理店での厨房でのアルバイトだった。

「ウェイトレスの女の子の制服が全員スリットの入ったチャイナドレスで、みんな可愛かったんですよ。料理の仕事も意外に楽しくなって来て。不思議なもので、仕事が楽しくなると同時に髪も生えてきたんですよ。自分にどんどん自信が出てきて、俺はキムタクだーくらいに思えて（笑）。高3くらいで性格も変わったと思います」

20歳で高校を卒業し様々な飲食店を回り、料理人としての腕を磨いていった。小金を貯めて、海外に旅行に行ったりバックパッカーをしたりすることもできるようになり、やっと人生が楽しくなってきたと感じていた。イタリアンシェフとして腕を鳴らしていたのもこの頃である。

しかし、それでも石橋の本当にやりたいことはまだ見つかっていなかった。そんなとき、一人旅でタイを訪れた。石橋の人生観を変える絶景が、そこには広がっていた。

「綺麗な島、真っ白な砂浜、断崖絶壁。タイのビーチがあまりに綺麗で、『これを機に人生再スタートしよう』と考えて日本に帰国しました」

NSCに合格!お笑いの道へ

「新しい人生で何をしようか考えたとき、『それならテレビに出てみたい』と思ったんですね。当時、テレビに出ている人は、遊んで楽しく暮らしている感じがしていたんです」

「楽しそう」という理由一つで、よしもとクリエイティブ・エージェンシー NSC大阪に入学を決意。願書を取りに行き、その場で提出。面接を突破し見事合格。26歳の春、800人の同期とともにNSC大阪24期生、そしてお笑い芸人としての道がスタートした。

「NSCの授業はひたすら実践でしたね。『漫才の授業を始めますので来週までにコンビを組んで来てください。組めなかったら来なくていいです』と言われて、みんな必死になって相方を誘うんです。僕の場合、高校出たての相方に『僕のお父さんこれ好きなんですよ』と、缶コーヒーを差し出されるというわけの分からない誘われ方をされてコンビを組みました。発声の授業やダンスの授業もありましたね」

NSCでは、クラス替えがありA～Dクラスに配属される。精鋭10組がAクラスに選ばれるが、ほとんどはDクラスとなり、そのままフェードアウトしてしまう者もいる。

「最初の夏の入れ替えでいきなりAクラスになったんです。そうしたら突然相方のハザマと連絡が取れなくなって。『違う人生探します』というメッセージだけ残して実家に帰っちゃったんです。7つも年下だし、今思えば多分、いきなりAクラスになったプレッシャーに耐えられなかったのかなと。しばらく別の人とコンビを組んで、卒業のタイミングでもう一度ハザマに連絡を取りました。和歌山まで迎えに行ったんですよ。彼が戻ってきてくれたおかげで今のイシバシハザマがあるんです」

新人グランプリ優秀新人賞

お笑い芸人のデビューまでの道のりは険しい。公開オーディションに200組のコンビが振り分けられて毎週土日でオーディションを行い、そのうち1組か2組しか合格

できない。大半がこのオーディションに勝ち上がれずに辞めて行く。シビアな世界なのだ。

しかし、お笑いへのチャレンジは石橋にとって初めての「やっていて楽しい」と思えることだった。厳しいスケジュールやネタ作りも苦にならなかった。

「当時は2期上のキングコングが出てきた頃で、テンポの速い漫才が流行っていました。おれらはずっと受からないのでお互いイライラしていたこともあって、たまたまわざとすべるようなネタ、機をてらってゆっくりしたネタにしたら受かったんです」

イシバシハザマはNSC卒業後3年目でようやく合格。さらに月末に行われる30組のライブで上位3組に残り、その上の10組と争って合格しデビューを果たす。

デビュー後1年くらいで東京の仕事が入りだし、トントン拍子で仕事が増えていった。2003年から始まった「エンタの神様」から始まるお笑いブームも追い風となり、順調に活動の場を広げていった。2005年にABCお笑い新人グランプリ優秀新人賞を受賞。それまで「お笑い芸人」という仕事を認めてくれなかった両親もこの賞の受賞をとても喜んでくれた。

「おとう飯大使」に任命

現在、石橋は内閣府男女共同参画局が推進する「おとう飯（はん）」キャンペーンの「おとう飯大使」を務めている。

「凝った料理を作ったときよりも簡単に調理した時の方が子どもたちの反応もいいですよ。『手早く、簡単に』を意識して、肩肘張らずにチャレンジしてみてください」と呼びかける。

日本の夫の１日の家事・育児時間は平均67分（妻461分）で、欧米諸国と比べて短い。内閣府では、2020年までにこれを2時間半に増やす目標を掲げ様々な活動を展開。その一環として簡単で手間をかけず、多少見た目が悪くてもおいしい料理を"おとう飯"と命名し、簡単レシピの料理を作るイベントやキャンペーンを実施している。

子育てのため「湘南」へ移住

石橋も、34歳で結婚し現在2児の父親である。子どもにとって一番良い環境で子育てをしたいという思いから、2018年3月に茅ヶ崎に移住。目の前に海があり、裏手には山があったという石橋にとっての幼い頃の原風景を思い出す。

「サケが生まれた川に戻ってくる理由って『自分が一回そこで育っているから』って聞いたことがあるんです。自分がここに移住を決めたのも、それに近い気がしています。実際住んでみて、湘南ってすごく良いと感じます。日照時間が長いのかな、人も明るい気がします。都会と違ってよその子でも悪いことをしたら『こらっ』と怒ってくれる雰囲気があって、自分の小さい頃と一緒な感じ。あと日差しが強いとお酒がうまいですね（笑）。サーフィンは昔からちょいちょいやってたんですが、今は鵠沼でほんこんさんや仲間と一緒にやったりしますよ。へたくそですけどね（笑）」

石橋は10月からレディオ湘南で自分の番組「はい、しょうなんです。」（土曜日深夜25時～26時）を持ち、さらに活躍の場を広げている。

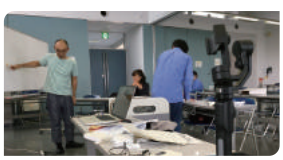
最後に、やりたいことや夢が持てない、夢があっても実現できない人へのメッセージをもらった。

「何事も思い詰め過ぎないことだと思います。うちの奥さんとは34歳で結婚するまで10年くらい付き合ってたんですけど、とってもポジティブな人なんです。芸人をやってみたいと相談したときも『やったらええやん』と気楽な感じで。だからこそやれたんだと思う。何とかなります。髪もちゃんと生えてきましたしね（笑）」

手軽にチョイ映えのスマホ動画を海辺で撮ろう
海とスマホと動画と（入門者向け）

2018年9月15日(土) at 10:00-12:00
神奈川県立湘南海岸公園 サーフビレッジ

湘南VISION大学の授業「海とスマホと動画と～手軽にチョイ映えのスマホ動画を海辺で撮ろう～（入門者向け）」を湘南海岸公園のサーフビレッジで開催いたしました。講師の加藤修大さんに、ストーリーを意識した撮影の仕方などを2時間たっぷり講義＆実習で展開していただきました。ご協力くださった皆さま、ありがとうございました。（文・中村 容）



海を知り、学び、楽しむ〔湘南シゴト会議vol.4〕
Plastic & sup

2018年9月16日(日) at 9:00- 12:30
POWDER COMPANY SHONAN

マイクロプラスチックゴミの勉強会、ビーチクリーン、SUP体験をセットにした湘南シゴト会議vol.4が無事終了しました。

ご参加の皆さん、ご協力いただいた皆さん、ありがとうございましたー！（文・片山 清宏）

～地面とつながるアーシング～
歩くマインドフルネス瞑想

2018年9月23日(日) at 9:00-10:30　由比ガ浜海水浴場

スタジオヨギー・インストラクターのタダヒコ先生の指導のもと、歩く瞑想プログラムを実施しました。アーシングとは、靴もソックスも脱いで、素肌で地球の大地と直接つながること。

体内に溜まった電気を体外に放出し、大地のエネルギーにつながるという健康法です。アーシングの方法をレッスンしてもらった後、みんなで普段着でもできるヨガを実施。そのあとは波の音、風のにおいを感じながら波打ち際でアーシングを行いました。最後はみんなで輪になって瞑想。普段の日常では味わえない、自分を見つめ直す静かな時間を過ごすことができました。

参加者からは「アーシングをして心が落ち着いた」「普段海に来ないので、海を見ただけでも心が軽くなった」「足裏から放電されているのが分かったかも」「すごく良い時間だった。まだ雑念があるので（笑）、またやってみたい」などの感想をいただきました。ご参加いただいたみなさま、本当にありがとうございました。（文・片山 清宏）

誰でも弾ける!歌える!仲間ができる!　海辺で楽しむウクレレ体験

2018年9月17日(月) at 13:00-16:00　　ホテル「KKR江ノ島ニュー向洋」1階多目的ホール

湘南VISION大学は子どももシニアもともに楽しめる授業を目指します!

9月の第３月曜日は「敬老の日」。年長の方を敬い、感謝の気持ちを伝えるための日です。生涯現役!というお元気な方が多い湘南地域ですが、我が湘南VISION大学でも多くのアクティブシニアの皆さんがご活躍されています。

私たちのNPOは、普段はサラリーマンや学生をしているメンバーが多く、平日は仕事や学業でなかなか動けません。とはいえ、授業講師との打ち合せや現場の下見、授業の企画調整、その他NPOの運営全般を休日の土日だけに詰め込むのはとても厳しいのが現実です。

そんなとき、「時間」と「経験」を活かして活躍されるアクティブシニアの皆さんの存在はとても貴重。

今日の湘南VISION大学授業「海辺で楽しむウクレレ体験?誰でも弾ける!歌える!仲間ができる?」講師を務めてくださった斉藤富彦さんも、授業の企画提案から会場やサポートスタッフの手配、当日の運営までとてもスピーディーに進めてくださいました。授業提案者のかたがていねいに、思いを込めて創り上げた授業はやはりとても盛り上がります。参加者の皆さんのたくさんの笑顔を見ることができるのは、私たち湘南VISION大学にとってもこの上ない喜びです。

これからもアクティブシニアの方のお力をいただきながら、持続可能な市民大学として運営していけるよう、頑張ろう!と思った今日の授業でした!

とみ～斉藤先生、ご参加いただいたみなさん、サポートスタッフのみなさん、ありがとうございました。（文・片山久美）

元プロ野球選手・古木克明さんと一緒に野球で遊ぼうvol.2　ビーチでアサカツキャッチボール

2018年9月23日(日) at 6:30～8:30　　湘南ベルマーレひらつかビーチパーク

平塚ビーチパークにてBaseball surfer 古木克明元プロ野球選手の「ビーチでアサカツキャッチボール」を開催しました!こどもから大人まで30名を超える参加者で、みんな裸足になって気持ち良く汗をかきました。素人にも楽しめる内容で楽しかったです。古木さんありがとうございました!　（文・関水 裕子）

Information

Let's have fun!
配布・設置していただける場所を募集しています

AD

藤沢スマイル歯科医院

いたくない！小児歯科から歯周病治療。入れ歯治療まで

スタッフ募集　笑顔あふれる新しい職場

【募集要項】若干名
【交通費】全額支給（車通勤OK!）
【待遇充実!食事代補助】
【設立】2008年
【科】一般、小児、矯正、審美、予防、ホワイトニング、歯周病治療、顎関節治療
【休】完全週休2日制（水、祝、他1日）※祝日週の振替診療なし
【就業時間】（月、火、木、金）10：00〜20：00
（土、日）10：00〜18：00　各日休憩90分
【他】夏季5日　冬季5日

トレアージュ白旗2F医療モール（小田急江ノ島線　藤沢本町から徒歩5分）
無料大型駐車場あり
HP　http://www.fujisawa-smileshika.jp

誰でも参加できる"海の学び場"『湘南VISION大学』授業

海の底からキレイにしよう! 江の島 海底清掃プロジェクト

10.06 Sat

2018年10月6日（土）at 10:00-12:00
会場：江ノ島ヨットハーバー

江の島の海底をキレイにして、2020年東京オリンピックセーリングの選手や観光客をお迎えする。
【講師】坂本昭夫氏 【参加費用】無料 【対象者】海が好きな方、江の島の海の底に何が沈んでいるか興味がある方

色ガラスを並べて楽しく作ろう! フュージングガラス体験

10.13 Sat

2018年10月13日（土）at 10:00-12:30
会場：ガラス工房JONAS GLASS VISION（ヨーナスガラスビジョン）

海を見渡せる工房でのガラス作品製作を通じて、海のある暮らしの楽しさ、自然の美しさを体感する。
【講師】賀来ヨーナス氏 【定員】12名 【持ち物】特になし 【参加費用】2,300円〜6,500円程度

くじら号の地球だいぼうけん（深海絵本読み聞かせライブ）

10.27 Sat

2018年10月27日（土）at 14:00-15:30
会場：古民家「葡萄屋」

海の不思議な生き物や生態系について楽しく学び、最先端の「深海サイエンス」に触れる時間。
【講師】加藤千明氏・豊福高志氏
【参加費用】1,000円/人、ソフトドリンク付(小学生以下無料、中高生 500 円/人)【定員】30名 【対象者】小学3年生以上 ※小学2年生以下のお子様は保護者同伴

授業の詳細・申し込み・お問い合わせ：
FB：https://www.facebook.com/shonanvision/
HP：http://shonan-vision.org/
申込は、Facebookイベントページの参加ボタンを押すか、info@shonan-vision.orgまでご連絡ください。
延期又は中止の場合は、Facebookイベントページ上又は湘南ビジョン研究所HPでご連絡します。

SHONAN VISION
Social Magazine
Vol.14
2018.10

PUBLISHER：片山清宏
EDITOR IN CHIEF：森休八郎
ART DIRECTOR：大戸千尋
EDITORIAL STAFF：片山清宏　片山久美
関水裕子　中村 容
COVER PHOTO：芹川明義

web http://shonan-vision.org/
@shonanvision
info@shonan-vision.org